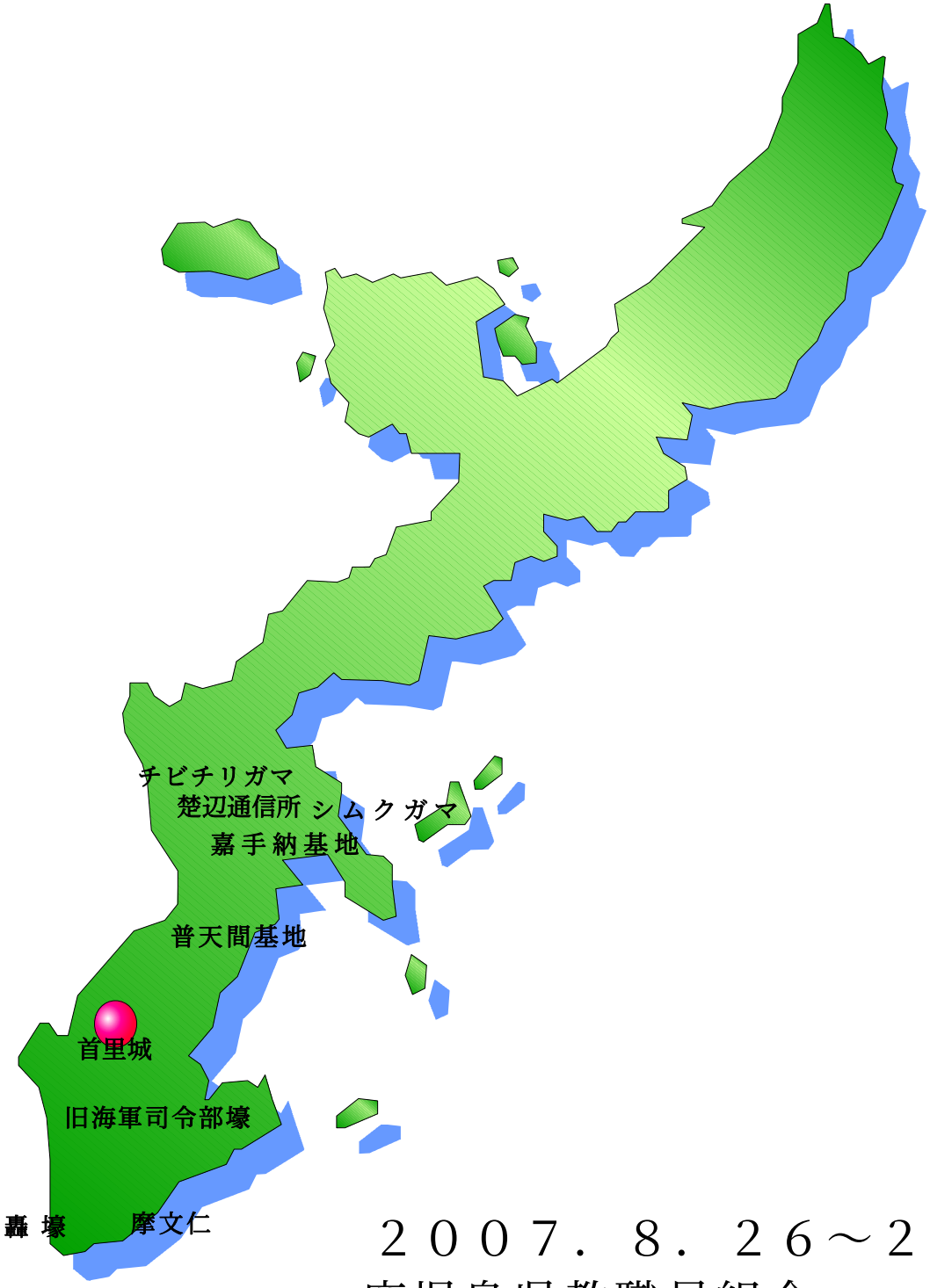
鹿教組結成６０周年企画

沖 縄 平 和 学 習 の 旅



２００７．８．２６～２８

主催　鹿児島県教職員組合
鹿児島県学校生活協同組合

参加者名簿

№	支部	学校名	名　　前	フリガナ	備考
1	本	鹿教組本部	柚木園　寿	ﾕﾉｷｿﾞﾉ　ﾋｻｼ	団長
2	〃	〃	小牧　裕彦	ｺﾏｷ　ﾋﾛﾋｺ	副団長
3	鹿	支部	上猶　覚	ｶﾐﾅｵ　ｻﾄﾙ	ＭＣ
4	〃	松元中学校	有満　さゆり	ｱﾘﾐﾂ　ｻﾕﾘ	
5	〃	紫原中学校	甲斐﨑みどり	ｶｲｻﾞｷ　ﾐﾄﾞﾘ	
6	〃	〃	池田　陽一	ｲｹﾀﾞ　ﾖｳｲﾁ	
7	〃	緑丘中学校	末弘　慈子	ｽｴﾋﾛ　ｲﾂｺ	
8	〃	明和小学校	瀬戸山　修子	ｾﾄﾔﾏ　ｼｭｳｺ	
9	〃	東谷山小学校	祝　満夫	ｲﾜｲ　ﾐﾂｵ	
10	〃	伊敷台中学校	上薗　万並	ｳｴｿﾞﾉ　ﾏﾅﾐ	
11	〃	桜丘東小学校	白川　成男	ｼﾗｶﾜ　ﾅﾙｵ	
12	〃	西田小学校	渡邊　英志	ﾜﾀﾅﾍﾞ　ﾋﾃﾞｼ	
13	南	知覧中学校	藤元　綾乃	ﾌｼﾞﾓﾄ　ｱﾔﾉ	
14	〃	〃	西　瑞枝	ﾆｼ　ﾐｽﾞｴ	
15	〃	〃	通山　安枝	ﾄｵﾘﾔﾏ　ﾔｽｴ	
16	日	生福小学校	瀬戸口　典久	ｾﾄｸﾞﾁ　ﾉﾘﾋｻ	
17	〃	串木野養護	有谷　美紀	ｱﾘﾀﾆ　ﾐｷ	
18	〃	伊集院中学校	重留　真理子	ｼｹﾞﾄﾒ　ﾏﾘｺ	
19	姶	福山小学校	二渡　世利子	ﾌﾀﾜﾀﾘ　ﾖﾘｺ	
20	〃	幸田小学校	西　真理子	ﾆｼ　ﾏﾘｺ	
21	〃	帖佐小学校	木下　栄人	ｷﾉｼﾀ　ｼｹﾞﾄ	
22	〃	重富中学校	山下　秀和	ﾔﾏｼﾀ　ﾋﾃﾞｶｽﾞ	
23	〃	日当山小学校	竹下　廣	ﾀｹｼﾀ　ﾋﾛｼ	
24	〃	塚脇小学校	小野村　伸一	ｵﾉﾑﾗ　ｼﾝｲﾁ	
25	曽	財部小学校	村永　法子	ﾑﾗﾅｶﾞ　ﾉﾘｺ	
26	〃		村永　奈央	ﾑﾗﾅｶﾞ　ﾅｵ	
27	〃	大崎小学校	本地　佐和子	ﾎﾝｼﾞ　ｻﾜｺ	
28	〃		本地　大輔	ﾎﾝｼﾞ　ﾀﾞｲｽｹ	
29	〃		本地　賢太	ﾎﾝｼﾞ　ｹﾝﾀ	
30	肝	支部	伊集院　達也	ｲｼﾞｭｳｲﾝﾀﾂﾔ	
31	〃	吾平中学校	堀　佑二郎	ﾎﾘ　ﾕｳｼﾞﾛｳ	
32	熊	支部	大石　正博	ｵｵｲｼ　ﾏｻﾋﾛ	
33	奄	名瀬小学校	生田　範幸	ｲｸﾀ　ﾉﾘﾕｷ	奄⇔沖縄
34	〃	手花部小学校	栗林　伸明	ｸﾘﾊﾞﾔｼﾉﾌﾞｱｷ	奄⇔沖縄
35	〃	龍南中学校	栗林　知美	ｸﾘﾊﾞﾔｼ　ﾄﾓﾐ	子2歳と1歳
36	本	鹿教組本部	下入佐恵美子	ｼﾓｲﾘｻ　ｴﾐｺ	お世話係
37	〃	学校生協	折口　玲子	ｵﾘｸﾞﾁ　ﾚｲｺ	

日程

８月２６日（日）

鹿児島空港　集合	８：３０（ＡＮＡ４７５便　９：５０　発）
那覇空港　着	１１：１０
那覇空港　発	１１：３０
昼食（パイナップルハウス）	１１：４０～１２：３０
旧海軍司令部壕跡	１３：００～１３：５０
摩文仁平和祈念公園	１４：３０～１６：３０
平和の礎石・平和祈念資料館・韓国人慰霊碑	
轟壕	１６：４０～１７：４０
ホテル　着	１８：１０（夕食１９：３０より）

８月２７日（月）

朝食

ホテル　発	９：００
宜野湾市嘉数公園	９：４０～１０：３０
普天間基地遠望・青丘之塔・京都の塔・トーチカ跡など	
沖縄国際大学ヘリ墜落跡	１０：４０（車窓より）
佐喜真美術館	１１：００～１１：５０
昼食（サムズアンカーイン）	１３：００～１３：５０
対馬丸記念館	１４：００～１４：４０
首里城	１５：１０～１６：４０

国際通り・公設市場などは各自自由散策　（夕食は各自でお願いします）

買い物は，この日にお願いします。

各自ホテルへ（ユイレール県庁前駅が最寄りです）

８月２５日（木）

朝食・チェックアウト

ホテル　発	９：００
嘉手納道の駅	１０：００～１１：００
座喜味城趾	１１：３０～１２：４０
昼食を含む（弁当）	
楚辺通信所跡・シムクガマ	１３：００～１４：００
チビチリガマ	１４：２０～１５：００
那覇空港　着	１６：１５（ＡＮＡ４７８便　１７：４０　発）
鹿児島空港　着	１８：５５　解散

ツアーに参加された仲間のみなさんへ

ようこそオキナワ平和学習の旅へ。

ヒロシマ・ナガサキとならんで沖縄をオキナワと書くとき，そこには，かつて１５年戦争でうけた沖縄の被害や実相，戦後の沖縄を学習することを意味すると思います。

これから３日間のツアーは，自主研修に値する内容をコンセプトにしています。観光地沖縄としてではなく，琉球文化圏の中心であった地として，そして，悲惨な地上戦がおこなわれた地，今なお在日米軍基地の７５％が集中する地であることを実際に目で見て，感じてほしいと思います。そして，このツアーをもとに仲間と学習し，さらには子どもたちと平和とはいったい何なのか話して欲しいと思います。もちろん仲間にも…。

ここで沖縄に関する基礎知識として，次のことを知っておくと便利ですので，簡単に説明します。沖縄には「５つの顔」があるといわれています。その５つとは，①「亜熱帯の顔」②「離島の顔」③「王国の顔」④「沖縄戦の顔」⑤「基地の顔」です。それぞれの「顔」について説明します。

まず,「亜熱帯の顔」とは，いわずもがな年間平均気温22.4℃。冬でも一日のうち最高気温が，１０℃を下回る日は少ない気候です。年間の温度差が少ないのが特徴です。日差しは，さすがに鹿児島とは違います。くれぐれも，日射病（熱中症）には気を付けましょう。年間を通しての平均風速が，４.７ｍ／ｓもあるので気温の高い夏でも、わりあい涼しく過ごすことができます。これは，日向と木陰で体感してみてください。（夏は，鹿児島より最高気温が低いことを，天気予報でも知ることができます。）

そして，ヘゴやハイビスカス，ブーゲンビリアなどの亜熱帯の植物，パイナップルをはじめとして，最近ではマンゴーやドラゴンフルーツなど熱帯系の果物も多く栽培されています。また，イリオモテヤマネコやヤンバルクイナなどに代表される沖縄の固有種も多く棲息し，東洋のガラパゴスとも呼ばれています。珊瑚の海と砂浜，色鮮やかな熱帯魚は沖縄の代名詞みたいなものですね。

次に「離島の顔」とは，島嶼（とうしょ）県沖縄です。県内の島々の総数は大小あわせて６０余り、これらを大別すると、沖縄本島を中心とした沖縄群島、宮古島を中心とした宮古群島、そして石垣島を中心とした八重山群島の３つに分けられます。こうした島のうち、人が住む島は４６。沖縄本島、宮古島、石垣島に人口か集中しています。

例えば，大阪に沖縄島を位置させると，最東端の大東島は，伊豆大島あたり，最西端の与那国島は長崎五島列島あたりになるそうです。与那国島から台湾まで航空距離でわずか１０１㎞しかありません。ちなみに，沖縄那覇空港から鹿児島への飛行時間と台湾への飛行時間はほぼ同じなのです。また，最南端の波照間島は，熱帯地域との境界にあたる北回帰線にもほど近い位置にあります。是非，沖縄島以外の島にも足を運んでみてください。

多くの離島を抱えるが故に厳しい現実もあります。それが離島苦（方言でシマチャビ）です。島ひとつ一つが独立しているとはいえ，干ばつをはじめとする自然災害，ひとたび台風が来れば，交通が遮断されてしまいます。また，人口減や医療に関する不安も大きいのです。

３つ目は「王国の顔」です。日本本土の縄文時代・弥生時代・平安時代末期に相当する時代、琉球弧の島々、それぞれの地域では、日本とは異なる独自の歴史や文化が個性豊かにはぐくまれていました。12世紀から15世紀にかけてのグスク時代をむかえると、琉球弧全体が一つの文化圏としてまとまりをみせはじめ、琉球王国の形成へと向かいます。その背景には、沖縄を取り巻く東アジア世界の大きな変動がありました。14世紀には、現在の中国が東アジアの中心的役割をになう新秩序が形成され、日本をふくむ周辺諸国と交易をおこなうようになりました。沖縄近海をふくむ東シナ海は、多くの船が出入りする交易の場となり、琉球列島は商人たちが行き交う中継地点としてにぎわいました。

（http://rca.open.ed.jp/history/story/epoch2/toitu_1.htmlより引用）

琉球王国とは、今から約570年前（1429）に成立し、約120年前（1879）までの間、約450年間にわたり、日本の南西諸島に存在した王制の国のことです。

北は奄美諸島から南は八重山列島までの琉球諸島には、約3万2千年前から人類が住んでいたことがわかっています。（港川人骨が発見されている）琉球諸島には、先史時代を経て、日本の鎌倉時代に当たる12世紀頃から一定の政治的勢力が現れはじめました。各地に「按司(あじ)」とよばれる豪族が現れ、彼らが互いに抗争と和解を繰り返しながら次第に整理・淘汰され、やがて1429年尚巴志(しょうはし)が主要な按司を統括し、はじめて統一権力を確立しました。これが尚王(しょうおう)家を頂点とする琉球王国の始まりでした。

その後、琉球では独自の国家的な一体化が進み、中国をはじめ日本、朝鮮、東南アジア諸国との外交・貿易を通して海洋王国へと発展してきました。首里城はその海洋王国の政治・経済・文化の中心でした。

琉球王国の歴史の中では、一度だけ大きな政権交代がありました。統一王朝が成立してから約40年後の1469年、伊是名島(いぜなじま)の農夫出身の金丸(かなまる)がクーデターにより政権を奪取し新王朝を開きました。しかし、金丸は前例に従い、また中国皇帝との関係にも配慮して尚王家を継承し、尚円王(しょうえんおう)と名乗りました。このため、琉球王国の歴史では、この政権交代以前の王朝を「第一尚氏王統」、それ以後を「第二尚氏王統」と呼んでいます。

さて、この第二尚氏王統は、初代国王尚円(しょうえん)から数えて19代目の国王の尚泰(しょうたい)時代まで（約400年）続きました。その間、1609年に日本の薩摩藩が3000名の軍勢をもって琉球に侵攻し首里城を占拠しました。それ以後270年間にわたり琉球王国の表向きは中国の支配下にありながら、内実は薩摩と徳川幕府の従属国であるという微妙な国際関係の中で存続していました。しかし、やがて日本の明治維新により成立した日本政府は、1879年（明治12）軍隊を派遣し首里城から国王尚泰(しょうたい)を追放し沖縄県の設置を宣言しました。ここにおいて、琉球王国は滅亡しました。

（http://www.shurijo.com/about/ryukyu.htmlより引用）

街角で，出会った人で，その民俗・音楽・焼き物など，すべてに独自の歴史や文化を感じることができると思います。

４つ目は「沖縄戦の顔」です。沖縄戦について簡単に説明します。

沖縄戦は，1945年の３月下旬から８月までの戦いをいいます。1944年10月10日、沖縄戦の前哨戦 として10.10空襲がありました。この空襲で旧那覇市街の９０％が焼失しました。旧那覇市内の養蚕試験場にあった司令部も焼け、首里城の地下に司令部壕が掘られる事になります。その壕を掘ったのが学徒たちでした。

米軍の上陸地点からこの首里城の司令部までの首里以北を中部戦線と呼び、司令部が首里陥落を目前に南部に撤退したため、多くの住民が戦闘に巻き込まれてしまいました。首里以南の戦いを南部戦線と呼んでいます。ひめゆりの悲劇もこの南部地域で起きました。ひめゆり学徒は，何度も映画化され有名なためこの南部地域こそが沖縄戦の主戦場であったと思われていることが多いようです。しかし，南部戦線は米軍にとっては，敗残兵狩りに等しい戦いであり、米軍の上陸地点から首里城までの中部地域こそが，日米が死力を尽くして戦った沖縄戦の主戦場でした。米軍は，上陸地点である北谷から首里城までの１０キロを進むのに，５０日間かかっています。沖縄守備軍は，この間１０万人のうち７万４千人（主戦力のほぼ７割）の兵力を失っています。日本兵の死者は，１日あたり千人以上にもなります。太平洋戦争で，もっとも激しい戦いといわれるゆえんです。

（http://www.city.naha.okinawa.jp/heiwa/gaid/okisen.htmより引用）

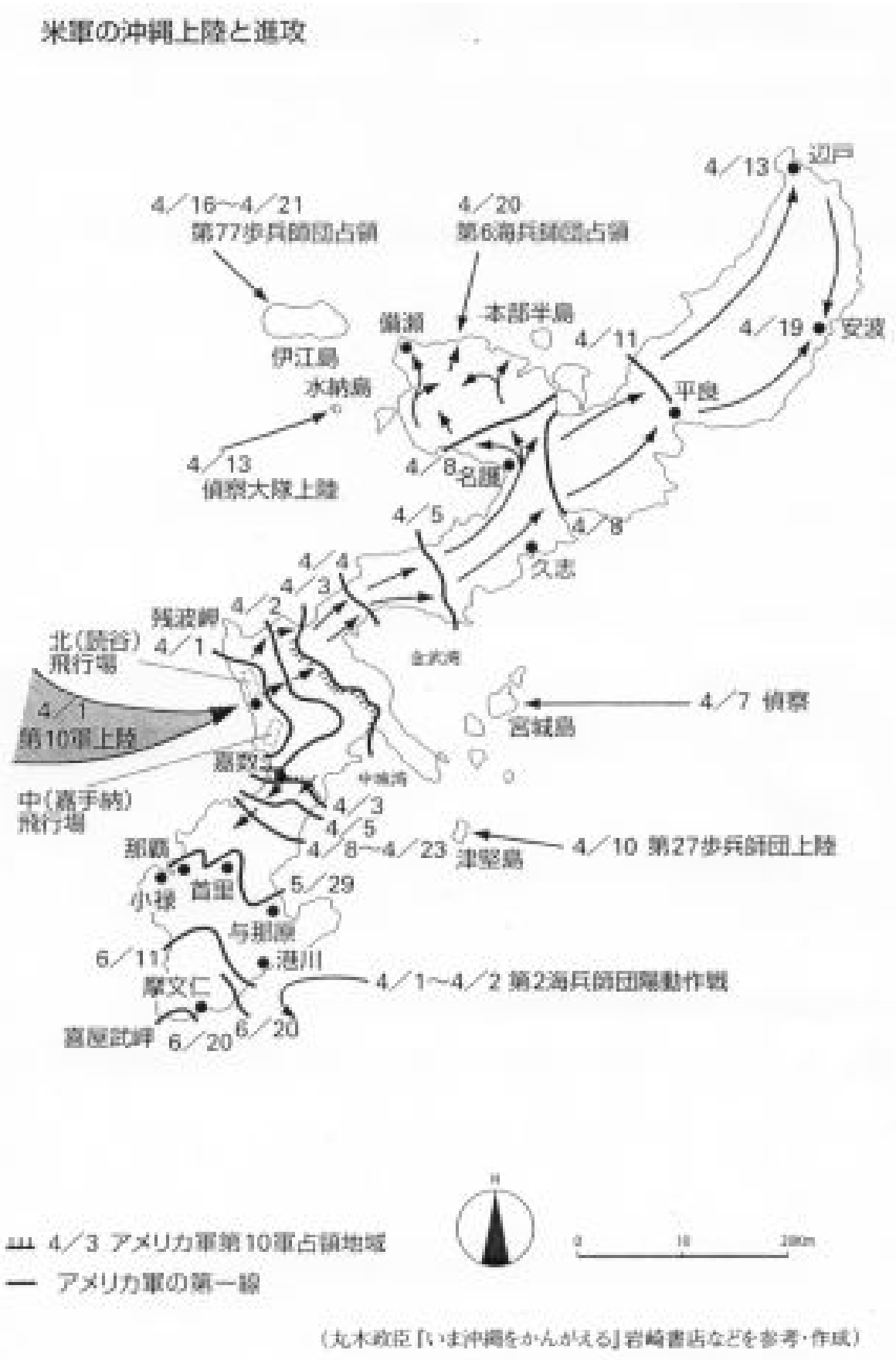
沖縄戦の主な経過

１９４４年	
１０月１０日	沖縄各地に空襲、旧那覇市街９０％焼失 「１０・１０空襲」と呼ばれる
１２月５日	第３２軍（沖縄守備軍）主力の武部隊、台湾へ移動
１９４５年	
３月２３日	米艦隊、沖縄本島攻撃（沖縄戦開始）
３月２６日	米軍慶良間諸島に上陸、３１日占領。「集団自決」発生
４月　１日	米軍が北谷、読谷に上陸。チビチリガマで「集団自決」発生
４月　４日	米軍が沖縄本島を南北に分断
４月　８日	嘉数高地で戦闘開始（中部戦線開始）
４月１９日	米軍、この日一日の戦闘で３０両中２２両の戦車を失う
４月２４日	嘉数高地、陥落
４月２６日	前田高地戦闘開始
５月１２日～５月１８日　シュガーローフの戦闘	
５月２２日	司令部、南部撤退を決定
５月２５日	南風原陸軍病院に南部撤退命令。糸数（ｱﾌﾞﾁﾗｶﾞﾏ）分院も解散
５月２７日	司令部、南部の摩文仁に撤退
５月３１日	米軍、首里城地下の沖縄守備軍司令部を占領
６月　３日	ガラビ壕(第２4師団病院分院)に解散命令
６月１９日	司令官牛島中将、指揮を打ち切る（日本軍の組織的抵抗の終結）
６月２３日	司令官牛島中将、摩文仁で自決、日本本土で「義勇兵役法」発布
６月２４日	米軍、掃討戦を開始
７月　２日	米軍　沖縄戦終了を宣言
８月１５日	日本、無条件降伏
９月　７日	守備軍の残存部隊と米第１０軍との間で降伏調印式 （沖縄戦の最終的な終結）

なぜ軍人よりも住民の死者が多いのか？

沖縄戦は首里城にある沖縄守備軍の司令部壕が陥落すれば終わるものと、米軍側も、当初は沖縄守備軍の司令官も、沖縄の住民も思っていました。それで首里以南の南部地域には多くの住民が避難していました。ところが本土防衛、国体護持の時間稼ぎのため５月２２日に南部撤退が決定されます。多くの住民が避難していた所にただ戦争を続けるために軍が逃げてきて、壕などを強制的に徴用したため住民は砲弾のなかに追い出される事となってしまいました。

（http://www.city.naha.okinawa.jp/heiwa/gaid/okisen.htmより引用）



（丸木政臣『いま沖縄をかんがえる』岩崎書店などを参考・作成）

「観光コースでない沖縄」高文研　新崎盛暉・他著　１９８３より引用

５つ目は「基地の顔」です。

米軍は戦後,「銃剣とブルドーザ」によって強制的に土地を接収していきました。その後，１９５１年のサンフランシスコ平和条約によってアメリカの統治下に置かれることになります。１９７２年に沖縄は本土復帰を果たしますが、現在なお多くのアメリカ軍基地が残されたままになっています。

施　設　数	３８
施設面積	２３，７５３ha
米軍専用施設面積	２３，４４５ha
軍人・軍属・家族数 合計：	４９，２７９人
軍人：	２４，５８７人
軍属：	１，３５５人
家族：	２３，３３７人

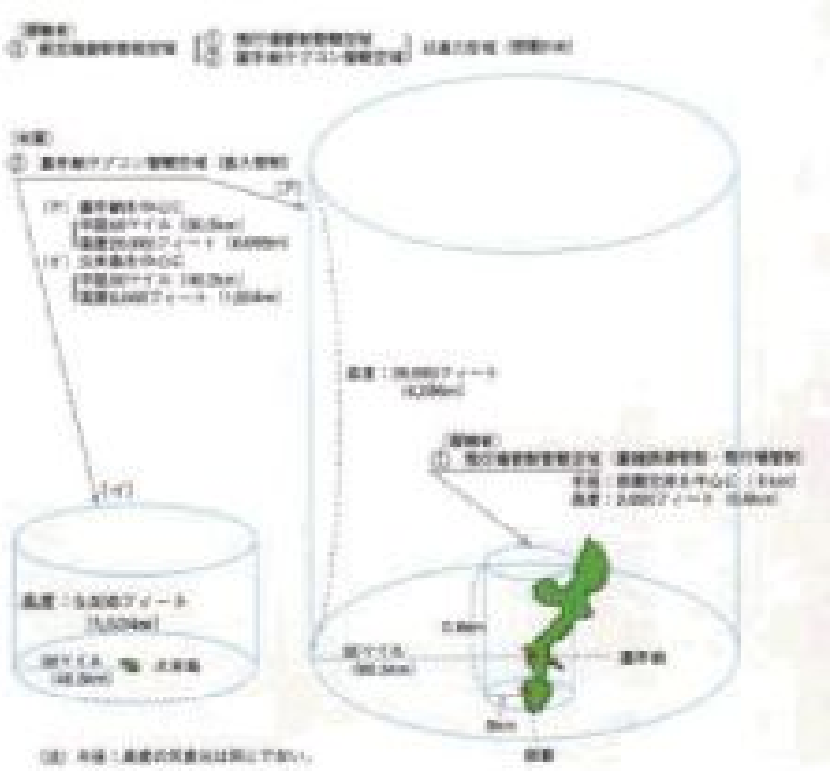
※　施設数・面積は、平成１３年３月末現在。
　　軍人数等については、平成１３年９月３０日現在。

沖縄は，日本の国土面積の０．６％を占めるにすぎませんが、そこに日本の米軍基地面積の７５％が集中し，県土面積に占める割合も１１％に達しています。とりわけ人口や産業の集積する沖縄本島においては約１９％を占めています。それに加え、沖縄周辺には、２９カ所の水域と２０カ所の空域が米軍の訓練区域として設定されているほか、嘉手納を中心に半径約８０ｋｍ、高度６，０９６ｍと、久米島を中心に半径約４８Ｋｍ、高度１，５２４ｍにわたり米軍が管制権を持つ「嘉手納ラプコン」が設定されるなど、陸地だけでなく海、空の使用が制限されています。（http://www3.pref.okinawa.jp/site/view/contview.jsp?cateid=14&id=579&page=1より引用）

⑵ 軍別施設数・面積・軍人数

区分	施設数	構成比(%)	面積（千㎡）	構成比(%)	軍人数(人)	構成比(%)
海兵隊	15	40.5	177,872	75.1	16,015	60.0
空軍	7	18.9	21,468	9.1	7,300	27.0
海軍	6	16.2	3,180	1.3	2,280	8.6
陸軍	4	10.8	3,776	1.6	817	3.0
共用	3	8.1	29,227	12.5	—	—
その他	1	2.7	264	0.1	—	—
合計	37	100.0	234,874	100.0	26,352	100.0

注 1．施設数・面積は、[illegible]（平成[illegible]年3月末現在）を基に県が作成。
2．軍人数は、[illegible]による。
3．共用とは、[illegible]施設である。（[illegible]、キャンプ・シールズ（[illegible]）、ホワイト・ビーチ地区（[illegible]））
4．その他とは、[illegible]施設である。（[illegible]）
5．[illegible]



これらをふまえて，３日間の楽しい研修にしましょう。以後は，フィールドワークに沿って案内をします。

鹿 児 島 県 学 校 生 活 協 同 組 合 の お 得 な 情 報

組合員証カード(DC.VISA 機能付き)

(07.4 より三菱 UFJ ﾆｺｽｶｰﾄﾞに変わります)
年会費無料（通常本人 1,312 円・消費税込み）
ショッピング機能付き
ポイントがたまる，給油もできる
出資金 3,000 円で！（退会時にお返しします）

簡易保険の団体割引

約３，０００人にご利用頂いております。
約４～５%の割引

住宅促進事業

☆一戸建て：標準工事見積額より３%割引
更に学校生協より１０万円相当の商品プレゼント！
◎提携店　ミサワホーム九州(株)，大和ハウス工業(株)，三井ホーム(株)
☆マンション：販売価格より２%割引
◎提携店（株）穴吹工務店

グループ共済・きずな

鹿児島県学校生協で団体取扱をしており，皆様，掛金をもとに死亡・入院等の給付を行い，あまりを３月に配当金として加入者にお返ししております。
07 年 3 月配当金：G 共済 61.3%きずな 45.8%
引受会社　明治安田生命

カタログ・チラシ

月に１度共同購入チラシをご案内しております。ご注文頂いた商品は，職場へお届けするため，締切後１０日ほどでお届けいたします。また，原則としてお支払いは給与引きです。
宅配カタログ「ハーモニー」他に関しては，インターネット上にも掲載しております。

ガソリン給油等

学校生協ガードで給油ができます
現金なしでOK，２０日締めの翌月給与差引
提携店
ＪＡｓｓ，岩崎産業ｓｓ，南国殖産ｓｓ
Ｍｉｓｕｍｉｓｓ

引っ越し事業

人事異動時期はもちろん１年中受け付けております。
引受会社　並松運送（株）

安心レジャー保険

☆ゴルファー，テニス，つり保険
6 月上旬発送予定　申込み締切 6 月 20 日

安心家族傷害補償

・日本国内外を問わず，ほとんどすべての傷害事故から２４時間ガード
・入院保障日数制限が 180 日から 1,000 日へ拡大
・個人賠償責任保険も大型１億円保障
10 月上旬発送予定　申込み締切 10 月 20 日

※　裏もあります

車輌販売事業

０６年１１月１日より**指定工場**の協力により学校生協車輌販売制度がスタートしました。

安心価格でご提供！

大手ディーラー３社

・トヨタカローラ鹿児島

・鹿児島日産自動車

・スズキ自販鹿児島

中古車についてはご紹介いたします。

セーフティ車検

安心価格に納得の車検整備

（例）

安心コース　小型自動車８５，９８０円

軽自動車　６３，７８０円

・消費税は含まれていません。

・基本工賃に含まれていない作業（例えばエアコン修理，マフラー交換，タイミングベルト交換等）

あらかじめ用意して頂くもの

印鑑，納税証明書，諸経費

学　校　生　協　指　定　店

（株）紳士服のフタタ

紳士服を初め店内商品，割引商品もすべて**さらに１０%ｏｆｆ　クーポン券と併用できます**

奄美ウコン卵黄油

定価１０，８００円　→　８，０００円（送料，消費税込みで！）

（株）日本トリム

☆電解還元水整水器（医療用具）

現在，医療分野であらゆる病気に関与していると言われる，「活性酸素」を世界で初めて水で消去したのが日本トリムの「電解還元水」です。

☆体に良い水を使ってみませんか！

☆トリムイオン TI-9000

本体価格＋基本取付費込みで 273,000 円を

２０２，６５０円（税込み）

ＴＥＬ　０９９－２１９－３６８０

今までの指定店

・**教職員専売オイル／タイヤ**（０９９－２６７－０１６０）
　学校にお伺いしてオイル交換，タイヤ交換いたします。

・**野元時計店**（０９９－２２２－０６８３）
　時計宝石，今話題のゲルマニュウム製品取扱い

・**（株）九州ホルプ**（０９９－２１９－１４７７）
　本のことは九州ホルプへ！

・**三扇**（０９９－２６９－３８２８）
　ローヤルゼリー等健康食品

・**ホルプキッズパーク**（０９９６－２５－８６８６）
　絵本と積み木の専門店

・メガネのことなら**（株）クラモト**（０９９－８０５－２５７７）

１日目　８月２６日（日）

旧海軍司令部壕

旧海軍司令部壕は、熾烈を極めた沖縄戦において、日本海軍沖縄方面根拠地隊司令部のあった所で、司令官大田実少将ほか約4000名の将兵が、この壕で壮烈な最後を遂げました。1945(昭和20)年6月13日午前1時頃のことでした。

迷路のような壕内には、司令官室、作戦室、発電室などが当時のまま残され、将兵が鍬やツルハシで壕を掘った跡が、生々しく保存されています。

旧海軍司令部壕は、昭和１９年に旧帝国海軍設営隊（山根部隊）によって建設され，その当時は約４５０m程あったと言われています。（現在公開されているのは，その内の２５０mです）壕はカマボコ型に掘られてあり横穴をコンクリートと抗木で固め、米軍の艦砲射撃をもよく耐えて持久戦の体制を取ることが出来ました。

この壕に約４０００人の兵士が収容されたそうです。壕内はいくつかの部屋に分かれており，現在公開されているのは８部屋です。その中でも、幕僚室にある自決時の手榴弾の破片跡があります。さらに、司令官室の壁には太田實海軍少将の愛唱歌が鮮やかに残されています。「大君の御はたのもとに死してこそ人と生まれし甲斐ぞありけり」と書いてあります。太田司令は６月１３日に自決、海軍部隊も玉砕しました。以下は太田司令が海軍次官宛てに、沖縄県民の献身的協力について訴えた電文です。

「沖縄県民斬ク戦ヘリ、県民ニ対シテ後世特別ノ御高配ヲ賜ワランコトヲ」

この電文は沖縄戦がどの様な戦いだったか良くわかる電文だと思います。この後も、残った２０００名の海軍の兵士は陸軍に編入され戦ったそうです。

（パンフレットを参照下さい）

摩文仁

糸満市摩文仁の平和祈念公園

平和祈念公園は、過去の大戦で最大の激戦地となった糸満市摩文仁地区にあり、平和祈念資料館、平和祈念堂、平和の礎などが整備されています。

園内には国立沖縄戦没者墓苑を中心とし、各都道府県、自治体、遺族会などの慰霊碑が数多く建立されております。

観光ルートともなっている同園は、無料駐車場が完備されており、駐車場から霊域に間には園内バスが運行されています。

1.島守の塔　2.栃木の塔(栃木県)　3.みちのくの塔(青森県)　4.岡山の塔(岡山県)
5.愛媛の塔(愛媛県)　6.遁魂の塔　7.房総の塔(千葉県)　8.福井の塔(福井県)
9.のじぎくの塔(兵庫県)　10.近江の塔(滋賀県)　11.新潟の塔(新潟県)
12.茨城の塔(茨城県)　13.群馬の塔(群馬県)　14.立山の塔(富山県)
15.神奈川の塔(神奈川県)　16.静岡の塔(静岡県)　17.給水記念碑　18.三重の塔(三重県)
19.第６２師団慰霊碑　20.岐阜の塔(岐阜県)　21.岩手の塔(岩手県)
22.埼玉の塔(埼玉県)　23.福岡の慰霊の塔(福岡県)　24.徳島の塔(徳島県)
25.なにわの塔(大阪県)　26.ふくしまの塔(福島県)　27.鎮魂長崎の塔(長崎県)
28.はがくれの塔(佐賀県)　29.防長英霊の塔(山口県)　30.ブーゲンビル島戦没勇士之塔
31.宮城之塔(宮城県)　32.ダバオの塔　33.空華の塔　34.義烈空挺隊慰霊塔
35.信濃の塔(長野県)　36.ＮＨＫの塔　37.火之国の塔(熊本県)　38.黒百合の塔(石川県)
39.千秋の塔(秋田県)　40.安らかに(鹿児島県)　41.勇魂の塔　42.黎明の塔
43.沖縄師範健児の塔　44.南冥の塔　45.しずたまの碑　46.愛國知祖の塔(愛知県)
47.独立臼砲第一連隊戦没英霊之碑　48.風部隊之碑　49.樺太の碑
資料館東側　工業健児の塔　韓国人慰霊塔

（http://www.asahi-net.or.jp/~qk3m-knk/oki-ireihi-01.htmより引用）

韓国人慰霊碑

平和祈念堂をバックにして建っています。石塚を中心に韓国の各地域から集められた石が並び、塚の前の 円形広場にはさまよえる魂のために故国への方向を示す矢印があります。朝鮮半島から強制的に連行されてきた人々はもっとも立場の弱かった。そのためもっとも危険にさらされ、かつ虐殺された人もいた。

韓国人慰霊塔前の碑文

１９４１年太平洋戦争が勃発するや多くの韓国人青年達は日本の強制的徴募により大陸や南洋の各戦線に配置された。この沖縄の地にも徴兵、徴用として動員された１万余名があらゆる艱難を強いられたあげく、あるいは戦死、あるいは虐殺されるなど惜しくも犠牲になった。祖国に帰り得ざる魂は、波高きこの地の虚空にさまよいながら雨になって降り風となって吹くだろう。
この孤独な霊魂を慰めるべく、われわれは全韓国民族の名においてこの塔を建て謹んで英霊の冥福を祈る。
願わくば安らかに眠られよ　１９７５年８月　　韓国人慰霊塔建立委員会

（http://www.city.naha.okinawa.jp/heiwa/gaid/online/kakoku.htmより引用）

沖縄戦と朝鮮人
沖縄戦研究を続ける安仁屋政昭・沖縄国際大名誉教授によると、太平洋戦線に動員された朝鮮人軍夫は約１４万人、このうち沖縄は１万人から２万人程度だった。また沖縄は「準外地」との考え方から、本土には少なかった兵士用の慰安所が判明しているだけで延べ１３０カ所あった。米軍資料などによると、少なくとも１６０人の若い朝鮮人慰安婦がいた。「朝鮮ピー」と呼ばれて沖縄の人からも差別された。
（http://www.nishinippon.co.jp/news/2005/sengo60/sengo4/03.htmlより引用）

三ヶ国語で書かれた碑文

沖縄平和祈念資料館

沖縄最大の戦跡「沖縄戦跡国定公園」にある沖縄県平和祈念資料館では、映像や模型を使い圧倒的な迫力で恒久平和を訴えています。沖縄戦にいたるまでの沖縄の歴史から、住民の見た沖縄戦、戦後の復帰運動、平和創造を目指す沖縄の姿までを５つのブースに分け常設展示しています。また、未来をになう子どもたちが平和を愛する心をはぐくむための未来を展望するゾーンも設けられ、平和について語り合える場になっています。

沖縄県平和祈念資料館は，旧資料館からするとその施設も規模も内容も大きくスケールアップしました。新館になるとき地元新聞では大きく取り扱われた展示内容があります。それは，沖縄戦のガマ（壕）の様子を再現した展示です。学識者を含む設立委員会が考えていた展示と「違っている。」「だれが変更したのか」ということです。結局は，はっきりしないままそのまま展示されています。日本兵が，小さな子どもを抱えた女性むけている銃剣の向きと，日本兵の顔の向きが不自然だと思いませんか？。沖縄戦で実際にあった日本兵の住民の壕追い出しや自決の強要,重傷患者への処置などを考えるてみてください。

摩文仁第３２軍司令部壕

平和記念公園内にあります。壕には目立つ看板は有りません。
牛島満陸軍中将を司令官として、最盛期には約１０万人の将兵を以て組織された沖縄守備隊の第３２軍でした。６月２３日（又は２２日）午前４時、牛島司令官はこの壕（もしくは、近隣の岩場）にて自決、それを追って、他の司令部将校も自決し、日本軍の組織的な戦いは終わったとされています。（６月２３日が，沖縄慰霊の日になっている理由です。）

現在の壕は、内部の落盤があるそうで、入口に柵が設置されており、洞内の見学はできません。この壕の上には、第３２軍司令部慰霊碑「勇魂の碑」（前頁地図４１）が建てられています。この碑の場所は、牛島司令官及び長参謀長の墓跡だそうです。「勇魂の碑」のすぐ上が、摩文仁ヶ丘最頂部で、牛島司令官及び長参謀長を慰霊する「黎明之塔」（前頁地図４２）が建っています。

牛島司令官　辞世の句
「秋をまたで　枯れゆく島の青草は　皇国の春によみかへらなむ」

牛島満は，鹿児島県の出身で，甲突川河畔に生誕の地碑がたっています。また，平和の礎には，鹿児島県の戦没者と共に刻銘されています。牛島中将は「最後まで戦うこと」と言い残して自決したため，戦闘は9月7日まで続きました。歴史に「もし」や「たら」はないのですが，この一言がなかったらもっと早く終結していたのではないでしょうか。

平和の礎石

沖縄の「平和の心」を世界に伝えようと、沖縄戦終結50年を祈念し、1995年に摩文仁丘に落成しました。並んだ石碑には国籍、軍人、非軍人を問わず、沖縄戦で亡くなったすべての人々の氏名が刻まれています。ただし、沖縄県民については、沖縄戦に限らず、全戦没者を対象としています。でも、強制連行され死亡した朝鮮人慰安婦の遺族の中には、周囲の差別や日本人と同列視されることへの反発から、石碑への刻銘を拒否した者もありました。（http://www.asahi-net.or.jp/~lk5k-oosm/war/ishiji.htmlより引用）

平和祈念資料館の近くの韓国人慰霊碑の碑文からすると，平和の礎に刻銘された韓国のかたの少なさ。また，沖縄の方のなかには，「○○の長男」や「○○の子」といった刻銘もあります。聴き取り調査によって存在は確認できたけれども，名前まではわからないかたたちの生きていた証となっています。心が痛みます。

轟の壕

（「沖縄の旅・アブチラガマと轟の壕ー国内が戦場になったとき」石原昌家著より引用）

沖縄本島南部の喜屋武半島中央部から名城海岸へかけて、全長約１、２キロメートルに及ぶ地下水脈の通った地下洞窟が形成されている。その地下洞窟は地表に開口する箇所があり、伊敷部落の南の丘に開口しているのが「轟壕・トゥルルシガマ」である。他には「ウッカーガマ」「ウンジャーガマ」などの洞口がある。

沖縄戦が始まる前、名城集落住民が避難壕として整備し、米軍の空襲や艦砲等には避難壕として使用していたが、５月中旬ごろ、日本軍による壕追い出しがあった。

５月下旬から６月上旬にかけて、避難民が入ってくるようになり、日本兵のグループも入ってきた。さらに、島田知事など県の幹部等も避難してきた。どれくらいの人たちが入っていたか定かではなく、５００から６００人とか１０００人以上という証言がある。６月中旬、島田知事は「後方指導挺身隊」を、荒井警察部長は「警察警備隊」を解散させ、摩文仁の司令部へと出て行った。壕内の日本兵は、それを機に民間人を壕の左側に閉じ込め、見張りを立たせ米軍への投降を阻止した。食料不足による餓死者が続出、多数の死者が出たが、確かな数字は不明である。

６月２５日、米軍と脱出に成功した宮城嗣吉らの呼びかけで多くの住民はガマを出たが、右側奥深く隠れていた地元の住民の一部はそのことを知らず、ガマを出たのはずっと後だった。

（http://okinawaheiwa.net/bg/todoroki/todoroki.htmlより引用）

２日目　８月２４日（水）

嘉数高地

宜野湾市嘉数にある高台、北谷、読谷、普天間基地を望む事ができます。

日本軍は，嘉数高地にトンネル陣地を構築していました。戦闘は，１６日間に及び米軍は１日間に２２台の戦車を失うなど激しい戦闘でした。爆雷を抱えて体当たりをし、戦車を止める様な戦法でした。

１９４５年４月1日に沖縄本島中部西海岸に上陸した米軍は、４～５日では中部一帯を制圧しました。日本軍は浦添の伊祖～仲間～前田から西原の棚原～運玉森の線に首里軍司令部の防衛陣地をかまえ、さらにその北方の嘉数高地に前衛拠点のひとつとして、強固な洞窟～トンネル～トーチカ陣地を構築していました。それまで、破竹の勢いで南下してきた米軍は、４月８日からこの嘉数・西原で待ち構えていた日本軍の激しい抵抗にあい、以後１６日間も一進一退の攻防戦を展開しました。

とくに４月１９日、米軍は３０台の戦車をくりだして嘉数高地攻略を試みましたが、「沖縄での一戦闘での損害としては最大」という２２台の戦車が破壊されました。タコ壺で待ち受けていた兵士が爆雷を抱えて戦車に体当たりし、動けなくなった戦車の蓋をあけて手榴弾を投げ込むといった肉弾戦法は、米軍にとって大変な脅威でした。一進一退の激しい争奪戦をくりかえした結果、日本軍は多大の戦死者を出し、２４日この前衛拠点を放棄して嘉数高地は完全に米軍の手中に落ちました。

（http://www5a.biglobe.ne.jp/~keiko-i/OKINAWA_INVITATION_2.htmより引用）

日本軍戦闘陣地のあった集落となかった集落では，地域の住民が多くなくなっています，その比率の高さは，沖縄住民を巻き込んだ戦いであったことを意味しています。

集落名	人口	戦死数	死亡率	一家全滅率	日本軍戦闘陣地有無
嘉数	695人	374人	54%	33%	日本軍いる
前田	934人	549人	59%	29%	日本軍いる
宜野湾	1036人	207人	20%	6%	日本軍いない

（「歩く・みる・考える沖縄」より）

ここには，次のような慰霊碑もあります。

青丘之塔

嘉数の高地に立つ、韓国人・朝鮮人を祀った碑。

青丘とは韓半島・朝鮮半島のことで、昔中国では，半島を中国側から見た様子からそう呼んだそうです。この碑の様に韓国人・朝鮮人の事にふれた碑は珍しいです。彼らは戦場でもっとも弱い立場であり、もっとも危険にさらされました。

京都の塔

沖縄戦の慰霊碑は，沖縄県をのぞき各４６都道府県建てられています。沖縄戦では，軍人よりも民間人の戦死者が多かったにもかかわらず、住民被害に触れている碑は，京都の碑を含め２基しかありません。また，文面においても特徴的で○○柱、英霊、玉砕、御霊などの様な語句がありません。

碑文

京都出身者の将兵２５３０名余りの人が、郷土を想いつつこの地で倒れた、又、多くの沖縄住民も運命を共にされたことは、まことに哀惜にたえない。戦後１９年を経てこの地で亡くなった人々のご冥福を祈るため京都市民によって建てられました。再び、戦争の悲しみが繰り返されることの無いよう、併せて沖縄と京都を結ぶ文化と友好の絆がますます固められる様、この塔に切なる願いを寄せます。

（http://www.city.naha.okinawa.jp/heiwa/gaid/index.htmより引用）

トーチカのあと

普天間基地

（http://www5a.biglobe.ne.jp/~keiko-i/OKINAWA_INVITATION_3.htmより引用）

海兵隊第３海兵遠征軍の第１海兵航空団隷下３６海兵航空群のホームベースとなっており、ヘリ部隊を中心として約７０機の航空機が配備され、在日米軍基地でも岩国飛行場と並ぶ海兵隊の航空基地となっています。同飛行場は、米海兵隊専用の航空基地です。２８００メートルの滑走路を持ち，面積４８０万㎡の施設で，米海兵隊にとっては重要な施設です。滑走路、格納庫、通信施設、整備・修理施設、倉庫があるほか、福利厚生施設等の設備があり、航空基地として総合的に整備されています。攻撃ヘリなど100機以上が配備され、日常的に離着陸訓練を行っています。宜野湾市の２６％の面積を占め、ちょうど中央に位置するため，宜野湾の町は文字どおりドーナツ状になり、はなはだしく住宅地に隣接しています。ヘリは，不安定でしかも訓練のため不定期なコースを飛ぶため，周辺の騒音被害はすさまじいものです。

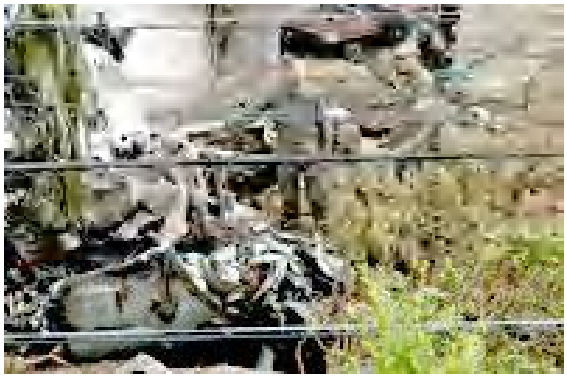
沖縄県は，最重点での返還を求めてました。96年４月の日米首脳会談で2007年までの全面返還が合意されましたが、県内移設が条件となっており、「海上ヘリポート」建設をめぐって予定地の名護市（辺野古）では反対運動が起こっています。

ヘリ墜落あと（沖縄国際大学キャンパス）

１３日午後２時１５分ごろ、宜野湾市宜野湾２丁目にある沖縄国際大学１号館（本館）の建物に普天間飛行場を飛び立ち訓練中だった米海兵隊のＣＨ５３Ｄ大型輸送ヘリコプター１機がバランスを失って衝突し、大学駐車場に墜落、炎上した。乗員の男性海兵隊員３人のうち、１人が重傷、２人は軽傷。民間人にけが人はいない。住宅地域での米軍機の墜落事故は復帰後初めて。事故原因について米軍は「機械的な不具合」と発表。牧野浩隆副知事は事故の重大性を踏まえ、普天間飛行場の名護市辺野古沖移設作業そのものを見直すことも含め、同飛行場の早期返還の在り方を再検討する考えを表明。安全性が確認されるまで、米軍や日本政府に対し、同基地での航空機の全面飛行停止を求めた。米軍は当面、ヘリの飛行を停止する方針を示している。（中略）

ヘリは墜落後に爆発し激しく炎上。宜野湾市消防本部や米軍の消防隊が消火に当たり、午後２時４０分に鎮火。１号館には当時職員２５人がいたほか、構内全体に数百人がいたが無事だった。乗員３人は北谷町の米海軍病院に搬送された。

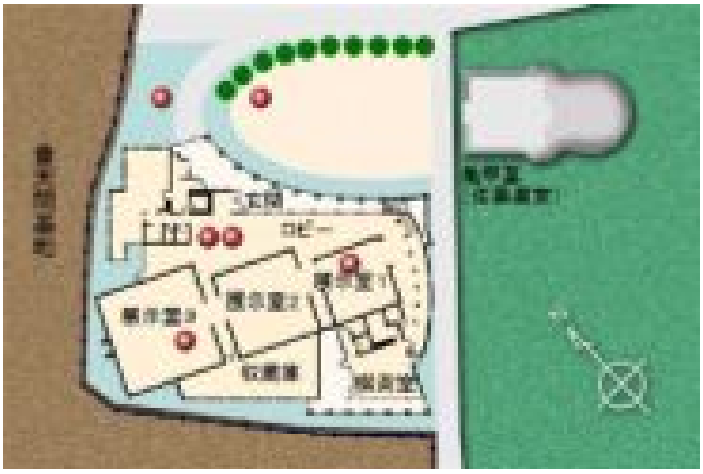
目撃者の話をまとめると、ヘリは大学南側の民間地上空を飛んでいる際に、機体から後部ローターやプロペラなどの部品がはじけ飛び、バランスを崩した後、大学１号館の建物に接触、墜落した。墜落直前は、胴体自体が回転し、操縦不能状態で飛行を続けていたという。墜落した機体はプロペラが根元から折れ、原形をとどめていない。ヘリが接触した１号館の屋上の縁は、削り取られたような接触痕が残り、同館の壁面は機体の炎上で焼けこげた。墜落現場周辺の民間地には広範囲にわたってヘリの部品が飛散。現場から約３４０メートル離れた我如古公民館近くでは、尾翼のローターとみられる部品が発見されている。墜落後、米軍が現場を封鎖し、県警は現場に入れていない。県警は１４日、米軍に同意を求め、同日中にも合同で現場検証を実施したい考え。在沖米軍トップのロバート・ブラックマン四軍調整官（海兵隊中将）は１３日午後９時、県庁を訪れ、牧野副知事に謝罪した。米軍によると、事故機はハワイのカネオへベイ基地の第２６５海兵中型ヘリ中隊所属。在沖の第３１海兵遠征部隊に配属され、半年間ごとの部隊展開計画（ＵＤＰ）のローテーションで山口県の岩国基地や普天間飛行場を回っていた。



（琉球新報２００４．８．１４の記事より）

２００７.７.２撮影

佐喜眞美術館



佐喜眞美術館誕生話

１９９４年１１月２３日オープンした佐喜眞美術館は、宜野湾市にある普天間基地のフェンスを押し退け、米軍基地に食い込むような形で建っている。それは、オーナーである佐喜眞道夫氏が、米軍との契約期限が切れる１９９２年、別に所有する軍用地の再契約と引き替えに返還させたものであり、粘り強い交渉を続けた末に勝ち取ったものであった。

佐喜眞氏が美術館建設に踏み切ったのは、「沖縄の絵は沖縄にあるのが一番いい」という夫婦の願いにかかわらず、受入先が決まらずにいる二人の姿をみたからである。それは、針灸師として東京で生活していた佐喜眞さんが、針灸で俊さんの目の治療を申し出てから続いていた交流の末の決断であった。

しかし、建設用地の確保、米軍や役所との交渉と、美術館建設には数々の難問が待ち構えており、ねばり強く交渉する間に７年の年月がかかってしまうことになった。そして、１９９４年１１月２３日ようやくオープンにこぎ着けたのである。それは、法律家であり沖縄民俗学者であった佐喜眞興英を祖父に持つ氏とその家族を、これまで暮らすことなく「片思い」していた沖縄に定住させることを決断させ、新たな歴史を刻む旅の始まりともいえる。

美術館の設計は、佐喜眞館長と一緒に建設用地を探し歩くことから関わった真喜志好一氏。彼は、コンクリート打ちっぱなしの美術館の中心線が、６月２３日の「慰霊の日」に沈む夕陽を指すようにすることを提案し､屋上からその夕陽が眺められるように設計した。同じ敷地内には、築後２８０年になるという佐喜眞家代々の巨大な亀甲墓（亀の甲羅に似た沖縄独特の墓）があり､「歴史的に厳しい場所であるがゆえに、静かにものを想う空間をつくりたい」という佐喜眞館長の想いを満たすかのように美術館を見守っている。そのせいか、すぐ近くを米軍ヘリが爆音をたてて飛び交っているにもかかわらず、あたりの空気は不思議な安らぎに満ちているのである。

１９９５年には、国連出版局刊行の「世界の平和博物館」に、沖縄県立博物館、ひめゆり平和祈念資料館とともに掲載された。　　（佐喜眞美術館ホームページより引用）

「沖縄戦の図」は　おきなわにあるのが一番いい

丸木　位里・丸木　俊

佐喜眞さんのおかげで､「沖縄戦の図」が
いよいよ沖縄へおさまることになりました。
沖縄戦の図」は沖縄にあるのが一番いいと思います。
沖縄の人にモデルになっていただき、
沖縄で描きあげた作品です。
大作は、家を一軒借りて、二カ月かかりました。
庭は珊瑚礁の上です。シートをしいて、
その上に毛布を敷いて和紙を広げて、
その上で座ったり歩いたりして描きました。
珊瑚礁のでこぼこが膝の下、足の裏に伝わってきました。
でこぼこのところで薬きょうをひろいました。
戦争の痕が未だに残っているのだなと思いました。
沖縄戦の絵をもって沖縄に行きます。
日本の中に冬がないところがあるということは、
ありがたいことです。
寒くなったら沖縄に行きましょう。

（佐喜眞美術館パンフレットから）

対馬丸記念館

建設理念

昭和19(1944)年8月22日、沖縄からの疎開者を乗せた「対馬丸」は、鹿児島県・悪石島付近で米海軍潜水艦ボーフィン号の魚雷攻撃を受け沈められました。このとき、乗船者約1800名のうち学童775名を含む1418名（氏名判明者数）が一瞬のうちに帰らぬ人となりました。
この年7月から翌20年3月の最後の疎開までに、沖縄から出航した延べ187隻の疎開船（約8万人）のうち、これほどの民間人が犠牲になったのは対馬丸をおいて他にありません。わたしたちは、対馬丸撃沈事件を過去の歴史的事実だけにとどめておくべきではないと考えます。

財団法人対馬丸記念会では事件から半世紀以上たった今こそ、この歴史の記憶を　共有し平和といのちの大切さを子どもたちの目線で伝えていくことが必要と考え、　対馬丸記念館の建設に取り組んできました。対馬丸記念館は平和学習の場として　　だけではなく、子どもたちを取り巻く様々な環境において地域コミュニティの重要性やいのちの大切さを知る場でありたい。さらには多角的視点に立った児童福祉や平和教育のあり方を学び、その拠点となる記念館を建設・運営することを目標として　います。

無念にも尊い命を失った学童たちに代わり、21世紀の子どもたちが夢と希望と平和にあふれた世界に“ 漕ぎ出せる ”ようにすることが、対馬丸記念館の大きな願いです。

（http://www.tsushimamaru.or.jp/index.htmlより引用）

戦時遭難船舶

首里城

首里城は沖縄の歴史・文化を象徴する城であり、首里城の歴史は琉球王国の歴史そのものである。

首里城は小高い丘の上に立地し、曲線を描く城壁で取り囲まれ、その中に多くの施設が建てられている。いくつもの広場を持ち、また信仰上の聖地も存在する。これらの特徴は、首里城に限られたものではなく、グスクと呼ばれる沖縄の城に共通する特徴であった。他のグスクは首里城との競争に敗れ滅んでしまったが、首里城のみはグスクの特徴を保持しながら新たな発展を遂げたのである。

首里城は内郭（内側城郭）と外郭（外側城郭）に大きく分けられ、内郭は15世紀初期に、外郭は16世紀中期に完成している。正殿をはじめとする城内の各施設は東西の軸線に沿って配置されており、西を正面としている。西を正面とする点は首里城の持つ特徴の一つである。中国や日本との長い交流の歴史があったため、首里城は随所に中国や日本の建築文化の影響を受けている。正殿や南殿、北殿はその代表的な例である。

首里城は国王とその家族が居住する「王宮」であると同時に、王国統治の行政機関「首里王府」の本部でもあった。また、各地に配置された神女（しんじょ）たちを通じて、王国祭祀（さいし）を運営する宗教上のネットワークの拠点でもあった。さらにまた、首里城とその周辺では芸能・音楽が盛んに演じられ、美術・工芸の専門家が数多く活躍していた。首里城は文化芸術の中心でもあった。

1879年（明治12）春、首里城から国王が追放され「沖縄県」となった後、首里城は日本軍の駐屯地、各種の学校等に使われた。1930年代に大規模な修理が行われたが、1945年にアメリカ軍の攻撃により全焼した。戦後、跡地は琉球大学のキャンパスとなったが、大学移転後に復元事業が推進され現在に及んでいる。復元された首里城は、18世紀以降をモデルとしている。2000年12月には首里城跡が世界遺産に登録されている。

（http://www.shurijo.com/より引用）

[昭和初期の首里城]
撮影：柳田菊造　　所蔵：野々村孝男氏

①

②

③

ホテルまでのお帰り情報

ユイレール

※　首里城からゆいレール首里駅まで，ワンコインバスが走っています。

※　ＤＦＳへは，おもろまち駅が便利です。

※　国際通りへは，牧志駅が便利です。

※　公設市場は，国際通りから平和通りを通って行けます。

※　ホテルへは，県庁前駅からが便利です。（長くて６００メートルくらい）

３日目　８月２５日（木）

嘉手納基地

嘉手納飛行場は、各々３００ｍのオーバーランを含め約４，０００ｍの滑走路を２本有する極東最大の空軍基地です。同飛行場は、第５空軍指揮下の第１８航空団のホームベースとなっており、戦闘機、空中給油機、空中早期警戒管制機など約１００機が常駐しています。同飛行場は、他のテナント部隊の役割と併せて、防空、反撃、空輸、支援、偵察、機体整備等の総合的な役割を担っています。第５空軍指揮下の第18航空団のホームベースとして、防空、反撃、空輸、支援、偵察、機体整備等の総合的な役割を担っています。

その他、居住地区には、学校、図書館、野球場、ゴルフ場、映画館、スーパーマーケット等、多種の米軍向け支援施設があります。また、国道58号西側の嘉手納マリーナ地区は、米軍人等の福利厚生施設となっています。嘉手納町の83％はこの基地と嘉手納弾薬庫が占有します。元日本陸軍中飛行場で、敷地内には女子挺身隊員20人の集団自決跡があります。

沖縄上空は全面的に嘉手納基地（嘉手納ラプコン）の管制下にあり、民間機は不自然な低空飛行を強制されています。那覇空港に離着陸する民間機が低空を飛ぶのは、別に観光サービスではないので念のため。

同飛行場は、３市町の振興開発の妨げになっているばかりでなく、航空機騒音により住民生活へ悪影響を与えています。

座喜味
城跡公園
座喜味城跡
座喜味
読谷村歴史民俗資料館・美術館
座喜味島
まるみぬ瓦屋
パーラー
ひまわり
上地
永和の塔
座喜味
公民館
吹きガラス
匠工房
鉄塔
ハブスタッフ
親志
読谷
中学校
12
ゲートボール場
公園
スーパーくらもと
ホルトの木の
根元にある
19
掩体壕
20
忠魂碑
座喜味
家族壕跡
18
テニスコートの角に忠魂碑
は建っている。現在は雑草
に覆われ先端部分が折れ
ている。
喜名
喜名
小学校
福祉センター
グラウンド
読谷村
運動広場
サン
マート
(喜名)
この掩体壕は全体が
植物で覆われている
ため気づきにくい。
読谷村
役場
22
読谷山(北)飛行場跡
点線部の道が
旧滑走路跡
58
義烈空挺隊
玉砕之地碑
21
ローヤル
レストラン
6
トリイ
ステーション
ゲート
(伊良皆)
現在は何の跡形
もありません
6
楚辺
収容
所跡
高志保
チビチリ
ガマ
7
読谷保育所
むら咲むら
村立図書館
赤瓦の
トイレ
食堂
景営
波平団地
読谷
小学校
12
ヘアーサロン
SHO
消防署
カラオケハウス
公園
読谷
中学校
自動車
整備工場
(TAX)
JAおきなわ
波平
シムクガマ
8
グラウンド
交番
電話BOX
イングェーガマ
キジムナーガマ
フェンス内のため
入れません
楚辺
通信所
(ゾウのオリ)
かむろ花
かねひで
畑のあぜ道
を下って歩く
6
アガリシムク
居酒屋
(北大地)
ファミリー
マート
読谷の里
セーラの森公園
読谷村
診療所
都屋

座喜味城趾

座喜味城跡は、沖縄本島中部の読谷村（よみたんそん）座喜味（ざきみ）の西海岸寄りの所に位置しています。中南部に広がる琉球石灰岩の丘の上に築かれているグスクが圧倒的に多い中、座喜味城跡は、国頭（くにがみ）マーヂと称される赤土の粘土質の台地上に築かれている点が、他と異なる特徴のひとつと言えます。

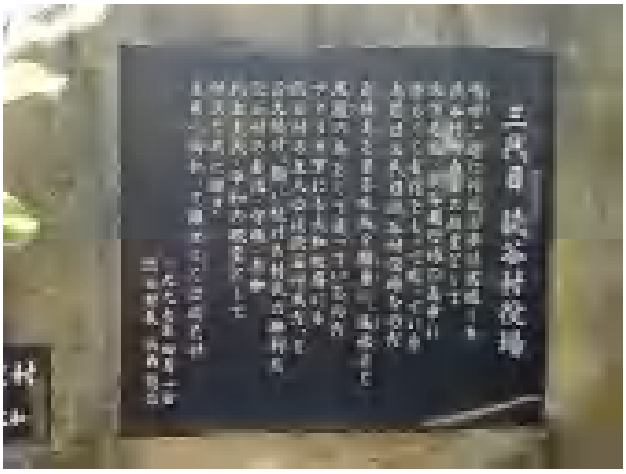
グスクは、標高125メートル程の高さに位置しており、北は恩納岳（おんなだけ）から本部半島（もとぶはんとう）までを一望でき、西は東シナ海に臨んで慶良間（けらま）諸島を視界にとらえ、南は中部地域一帯を眺め渡すことのできる、築城の最大の条件を満たした立地にあると言えます。

（http://www.wonder-okinawa.jp/002/001/zkm.htmlより引用）

２００５年沖縄県立公文書館で開催されていた米軍の沖縄上陸作戦「ｱｲｽﾊﾞｰｸﾞ作戦」に出ていた具体的な上陸の計画です。

赤い文字の「渡具知」に米軍上陸の碑あります。

読谷村役場



読谷村役場は，正式に返還はされていない在日米軍基地に建ってられました。

読谷村役場の敷地には，憲法９条の碑などが建っています。

楚辺通信所

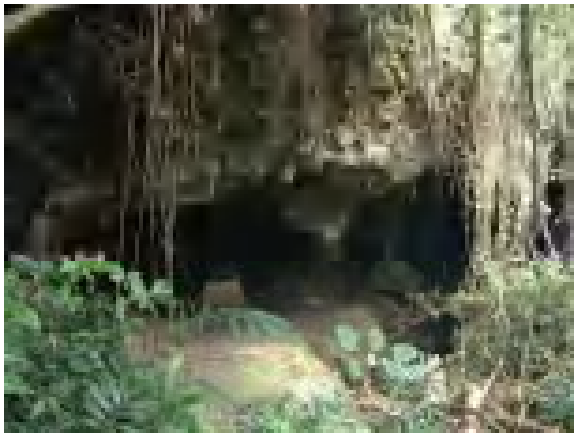
直径約２００m、高さ２８mの巨大な檻のようなケージ型アンテナ，全方向の交信用短波に備えています。軍事通信の傍受施設として使用されています。通称「ゾウのオリ」。「キャンプ・ハンザー」とも呼ばれています。米海兵隊の施設で、極東一帯の電波を傍受する通信基地です。同型のものが鹿児島の喜界島にも建設が始まっています。喜界島のものは，ここのものよりも新しくなり，高性能なのだそうです。７月には，解体工事がすすんでいました。

シムクガマ

シムクガマは波平又川原（マタガーバル）に洞口を開いた天然の鍾乳洞です。その所在を分りやすく言いますと、アメリカ軍楚辺通信所（俗称・象の檻）の北隣りの低地にあり、資料によりますと、「洞口はアガリシムクとイリシムクの二つあり、総延長2,570メートル」とあります。1945年（昭和20）3月、アメリカ軍の空襲は日を追って激しくなり、やがて艦砲射撃も始まるようになりますと、波平では約１千人の字民がこの洞窟に避難するようになりました。やがてアメリカ軍の沖縄本島上陸の日、激しい砲爆撃の後、アメリカ軍は読谷山村の西海岸から怒濤（どとう）のような勢いで進撃してきて、戦車をともなったその一部は、シムクガマに迫って来ました。アメリカ兵が銃を構えて洞窟入口に向かってきますと、人々は恐怖の余りうろたえ、洞窟内は大混乱に陥りました。いよいよ殺されるのだと、洞窟の奥へ逃げ込もうとしますが、足の踏み場もありません。

その時、ハワイからの帰国者、比嘉平治（屋号蒲恩納・当時72歳）と比嘉平三（屋号恩納・当時63歳）の２人が、「アメリカーガー、チュォクルサンドー（アメリカ人は人を殺さないよ）」と、騒ぐ避難者たちをなだめ説得して、ついに投降へと導き、１千人前後の避難民の命が助かったということです。(「救命洞窟之碑」建立記念パンフレット参照。)

この事実に基づいて波平では、命を救った二人の先輩に感謝の意をこめて洞窟内に記念碑を建立してあります。



（http://www.yomitan.jp/sonsi/senseki/map/index.htmlより引用）

チビチリガマ

読谷村にある石灰岩の自然洞窟です。チビチリガマは、「尻切れ洞」という意味です。

1945年の沖縄戦では、米軍上陸後の4月3日に、波平地区の住民85名がここで火を放ち、あるいは毒薬や刃物をもちいて集団自決を強いられました。「米軍に捕虜になれば辱めを受け、殺される」「日本人として潔く死ね」という、皇民化教育と軍隊による強制による悲劇です。

1983年以降、児童文学者の下嶋哲朗氏の呼びかけで調査が行われ、実態が明らかとなりました。壕の内部には眼鏡、入れ歯、ボタンなどの遺品も残っていますが、遺族の要望により、現在立ち入りは禁止になっています。入口にある「平和の像」は金城実氏によるものです。右翼によって破壊されましたが、全国からの募金で再建されました。

「平和の像」金城　実　作

おわりに

この旅を，オキナワを知る第一歩として，インターネットや手元にある資料をもとにしおりを作成してみました。沖縄に関する文献や資料は，他にもたくさんあります。今回はふれませんでしたが，西表島への集団疎開による悲劇や沖縄島北部にある伊江島のことなど，わたしたちが知らない（知らされてこなかった）沖縄についてより深く広く学習してみてほしいと思います。

そして，もう一度沖縄に足を運んでください。

（発行・文責　佐土原　光孝・上猶　覚）

謝辞

鹿教組結成６０年「沖縄平和学習の旅」実施にあたり，鹿児島県学校生協より多大なご支援・ご尽力をいただきました。ここに記して，心より感謝申し上げます。

ネット検索

（財）沖縄観光コンベンションビューローの沖縄観光情報Webサイト

http://www.ocvb.or.jp/index.php?current=Page_Header&action=Top_Page&mode=isel&lang=ja&name=top_page

沖縄タイムス社

http://www.okinawatimes.co.jp/sengo60/kako/19880621_01.html

南部戦跡に膝をつきて

http://www7a.biglobe.ne.jp/~bone

西日本新聞

http://www.nishinippon.co.jp/news/2005/sengo60/sengo4/03.html

Web写真館

http://homepage1.nifty.com/ea-photo/index.html

沖縄平和ガイド

http://www5a.biglobe.ne.jp/~keiko-i/OKINAWA_INVITATION

宜野湾市（普天間基地関連）

http://www.city.ginowan.okinawa.jp/

沖縄情報センター（沖縄戦・米軍基地・その他）

http://www.asahi-net.or.jp/~lk5k-oosm/base/futenma.html

那覇市（沖縄戦関連）

http://www.city.naha.okinawa.jp/heiwa/gaid/index.htm

對馬丸記念館

http://www.tsushimamaru.or.jp/index.html

首里城

http://www.shurijo.com/

旧海軍司令部壕

http://home1.catvmics.ne.jp/~yamato46/page8.htm

佐喜眞美術館

http://sakima.art.museum/

読谷村役場ホームページ（読谷村の戦跡めぐり）

http://www.yomitan.jp/sonsi/senseki/map/index.html

参考・引用文献

「新歩く・みる・考える沖縄」　沖縄平和ネットワーク編
沖縄時事出版　1997.11.20

「沖縄戦跡と米軍基地ﾃﾞｼﾞｶﾒﾃﾞｰﾀ＆資料集ＣＤ版ｶﾞｲﾄﾞﾌﾞｯｸ（第３版）」
沖縄教職員組合教育研究所　2003.12

「沖縄の旅・アブチラガマと轟の壕ー国内が戦場になったとき」　石原　昌家　著
集英社新書　2000.6.21

「新版・観光コースでない沖縄」　新崎盛暉他著　高文研　1991.8.1

その他